

番傘川柳本社

5月投句句会

締め切り……令和8年4月15日
 参加者……中岡 千代美 100名
 投句整理……中岡 桂子
 名簿作成……中岡 千代美
 清記……柴田 桂子

宿題 うっかり 辻 直子 選

うっかりのひととそれが本音です
 うっかりへフォロー優しい人の笑み
 逆鱗にうっかり触れて北の果て
 高速を逆行うっかりじゃ済まぬ
 うっかりが増えすぎ返納を覚悟
 名シーンうっかり居眠り見逃した
 儲け話うっかり乗って丸裸
 うっかりが多く検診勧められ
 うっかりと踏み間違えた地獄絵図
 うっかりを狙っているよプロ詐欺師
 うっかりと乗ってしまったあの笑顔
 うっかりと呼名私の句ではない
 網棚に土産忘れた里帰り
 三日間徹夜の資料削除パー
 携帯に夢中で電車乗り過ぎ

小林すみれ
 桑野まりこ
 西谷 公造
 阿部 俊八
 阿部 俊八
 坂本 和子
 山岸 峰隆
 竹明なおみ
 確水 祥昭
 諸富 幹夫
 替地三枝子
 みよしすみこ
 楠山東石子
 羽生 悦郎
 楠山東石子

止めた場所探して回る駐車場
 車庫入りと気付かず乗って舟を漕ぐ
 赤札の品をそのままプレセント
 乗り込んで逆方向のバスと知り
 へソクリを隠した場所がわからない
 よく失くし複製を持つ家の鍵
 不注意で手が当たったと言う痴漢
 缶ビール開けてしまった休肝日
 ついうとうとのぞみ列車と他府県へ
 朝ごはん食べてしまった検査の日
 診察に入れ歯忘れて医者臭う
 一球を大事にしてるプロ野球
 まだですかボヤク海馬のせいにする
 子だくさんたびたび名前まちがえる
 雑談にぶすりと吹き矢飛んできた
 ふけたのね一言仕舞う母の前
 消し忘れメール見られて一波乱

塩谷 邦子
 大島美智代
 羽生 悦郎
 遠近 哲代
 石黒由美子
 松下 英秋
 小林すみれ
 西川 東岳
 藤井 裕美
 青嶋由紀美
 横山 順子
 楠本 晃朗
 山口由利子
 永田 紀恵
 田中きみ子
 高橋 孝造
 廣田ひで子

宿題 もやもや 湯澤 孝扇 選

食べ頃を逃がした仏壇のメロン
 捜しているメガネ頭上でかくれんぼ
 転けたのはいつもの慣れた帰り道
 あっファスナー閉める龍一ベアの息
 数数のポカを乗り越え生きてます
 生まれつきあわてものですふとミスを
 饒舌な口に油断と云う迂闊
 見てられぬ姿晒した通夜の妻

山本 昌乃
 近藤 クニ
 常國 喜好
 穴戸三喜恵
 豊田 佳子
 本田 智彦
 小代千代子
 辻 直子
 みよしすみこ
 井手 良祐
 永田 紀恵
 安西 廣恭
 山岸 峰隆
 坂本 和子
 高瀬 秀子
 西川 東岳
 住田 照水
 三瀬清一朗
 松下 英秋
 西谷 公造
 鮎子田嘉子
 福本 清美
 竹明なおみ

うさ晴らしちょっと弾んで紅を引く
 泣きこは言わぬと決めたのにしかし
 もやもやを忘れるような快晴だ
 見たいもの見ればもやもや消えていく
 もやもやに歌が聞こえる露天風呂
 つき合つて五年まだ無いプロポーズ
 もやもやを切り刻んでる台所
 隣りからいびきが止まり寝られない
 同調の輪を抜けて知る遣る瀬無さ
 もやもやを拭つてくれた母の声
 もやもやもあつて大人の仲間入り
 もやもやが更にわたしを鬼にする
 もやもやを抱けば老いでも血が騒ぐ
 もやもやも今は懐かし片想い
 もやもやが心迷子にさせました
 もやもやを丸めたままの物忘れ
 ありがたうそのひと言が言えぬまま
 しがらみが多くてもめる老いの春
 もやもやの記憶に母の割烹着
 足して割りしっくりこない仲直り
 もやもやをワクワクにかえ生き上手
 一本の補助線もやもやははらす
 もやもやを雨後の空気が浄化する
 もやもやも有つて厚味の人生譜
 大声で叫べもやもや山が吸う

弘津 明子
 田中きみ子
 武藤 伶子
 富永 熙子
 嶋 喜八郎
 阿部 俊八
 毛利 元子
 塩谷 邦子
 山口由利子
 久崎 田甫
 村上 哲子
 鈴木かつえ
 羽生 悦郎
 南 高志
 桑野まりこ
 主税みずほ
 常國 喜好
 富川 章
 小代千代子
 瀬戸 波紋
 島田千代子
 山田 順啓
 谷口委佐子
 茶谷 好太
 龍田 清成

宿題本 音 森 茂俊 選

仮面の中に隠す本音が輝割れる
 三年目本音がぼろり倦怠期
 空気読み本音隠すと咳が出る
 三次会やつと本音で喋り出す
 子は本音親は立て前かみ合わせ
 緊張が解けて本音が顔を出す
 ヤングケアラー負の感情が吐き出せぬ
 門外不出呑み屋であふれてる本音
 後期高齢本音が吐けぬワンルーム
 硬軟で本音吐かせる遺産分け
 前撮りの遺影の裏にある本音
 居酒屋で本音飲み干す大ジョッキ
 SNSが本音の海で溺れてる
 子離れに心づもりは出来ている
 なるほどとチクリと針を刺す本音
 おとつと冗談からの出る本音
 行間に答え本音のかくれんぼ
 本音かも知れぬ寝言が気にかかる
 かけ放題本音まじりの小夜時雨
 隠れんぼ下手な本音が尻尾出す
 アレコレモがけつこう本音ウソはない
 色のない仮面をつけている本音
 奥深く秘めた本音が出た吐息

栗原つや子
 橋本 恭治
 安藤 緑
 住田 照水
 黒田のみ子
 西澤 司郎
 田中五十鈴
 入江 晴菜
 香川 大
 富川 章
 茶谷 好太
 替地三枝子
 能田 文夫
 嶋 喜八郎
 久崎 田甫
 島田千代子
 藤井 裕美
 戸田 清孝
 横山 順子
 豊田 佳子
 米田 恵子
 弘津 明子
 稲葉 岩明

おっとりの妻が時々言う本音
 本音は言わずに冷凍保存する
 オフレコと言われて顔を出す本音
 二枚舌本音は舌の裏にある
 遊びだと言うが眉間に皺寄せる
 少年のニキビ素直に吐く主張
 本音から出た真心が宝もの
 はんなりの中の本音が突き刺さる
 美味いかと聞かれ本音がうろたえる
 猪口五杯やつと本音にたどり着く
 本音聞く友は黙って笑うだけ
 砂を吐くように本音を吐くグラス
 建て前で止まり卵を茹ですぎる
 階段にぼつんと置いてある本音
 カニの足あこがれよりも身が細い
 消しゴムに本音のカスが纏いつく
 賛成の挙手の高さに出る本音

若山 宗彦
 阿部 俊八
 村上 哲子
 諸富 幹夫
 山内 悦次
 常國 喜好
 森島アツ梗
 田中 堂太
 高橋 孝造
 高瀬 秀子
 鮎子田嘉子
 竹明なおみ
 山本 昌乃
 掃部 博隆
 稲垣 義舟
 西川 東岳

宿題 錆びる 前中 知栄 選

錆びたのか海馬時々ストライキ
 どの辺が錆びてますかと聴診器
 温暖化地球の錆を防がねば
 錆びながらまた恋の字書いている
 晩学の森に踏み込む錆びた脳
 セピア色記憶の底に錆びた跡

島田千代子
 みよしすみこ
 久崎 田甫
 戸田 清孝
 常國 喜好
 弘津 明子

黒田節槍が錆びたか酔いつぶれ
 村田 繁一
 鉄道赤錆びて廃線の風評
 山田 順啓
 主義主張錆びても曲げぬ釘でいる
 阿部 俊八
 若い日の棚に忘れた錆びた本
 廣田ひで子
 回っていない地球の錆に匂う油
 入江 晴菜
 毎日の弧食に錆びてきた胃腸
 竹明なおみ
 整体師錆びる流れの血をほぐす
 掃部 博隆
 錆止めに笑いのタネ持ち歩く
 鈴木かつえ
 錆止めをかけて百寿へ迎る旅
 栗原つや子
 物干しの錆が気になる認知症
 西陣 五朗
 廃線の錆びたレールに涙雨
 毛利 元子
 献金の錆を落とせぬ永田町
 水戸 二七
 身の錆を落とさんとてか花遍路
 西谷 公造
 一役を買ってから出た声の錆
 中谷 栄子
 錆の花とどこどこに金婚譜
 西川 東岳
 戦場の面影錆びて語る島
 恵利 菊江
 名湯も休業とあり錆びる宿
 藤井 裕美
 赤錆びて遺構で生きる転車台
 細川 正章
 木漏れ日の錆びついているヒルの谷
 主税みずほ
 錆びついた性善説に水をやる
 村上 哲子
 錆落とす特効薬になる夕日
 茶谷 好太
 風格へ一役買った青い錆
 青嶋由紀美
 触覚が錆びては乱世生きられぬ
 山口由利子
 錆びのある声が嬉しい終い風呂
 南 高志
 裏木戸も無沙汰ばかり軋みだす
 稲垣 義舟

錆びてからが値打ち貫禄ついてくる
 若山 宗彦
 ありふれた言葉にすべるベンの錆び
 小代千代子
 錆びついた心を溶かす花紀行
 福本 清美
 朽ちてなお黒煙上げる父の貨車
 前田ゆうこ
 うどん屋のねぎがおててをつないでる
 楠本 晃朗
 錆びた鎌研いで草刈る春の墓
 香川 保子
 潮時を迷い花道見失う
 田中きみ子
 錆びたまま被爆を語る掛時計
 三瀬清一朗
 錆感も計算されたアンティーク
 山岸 洋美
 宿題 嫌 い 岩田 明子 選

何となくウマが合わずに距離をおく
 武藤 伶子
 嘘っぱちべらべらしゃべる人嫌い
 井手 良祐
 あれ嫌いこれも嫌い欲望深い
 山田 順啓
 好かぬ人きつとあちらも嫌いでしょ
 青嶋由紀美
 偉そうに上から目線組んだ膝
 高瀬 秀子
 下ばかり向いて終わつた今日でした
 藤井 裕美
 わたしより美人の横へ座らない
 松岡登代子
 二月は嫌い晩酌二百分の損
 永田 紀恵
 階段を嫌う足腰どないしよう
 小林 祥司
 ローンクは嫌百本のバラが好き
 茶谷 好太
 耳栓をして座りたい歯科の椅子
 福本 清美
 戦争を正当化する独裁者
 近藤 クニ
 花占いが嫌いと出たら何度でも
 常國 喜好
 嫌いだが波を立てずに貫つとく
 嶋 喜八郎

もう嫌い何度も同じ事言うな
 東縛が嫌で独身貴族です
 納豆が体に良いと分かっている
 嫌いで言えれば苦勞しないのに
 大嫌いを解く鍵なら愛でしよう
 大嫌いと言ったが好きで堪らない
 そっと去る嫌いなんだと言う背中
 押しつけられる勉強は嫌いです
 スイッチを切るあの人が出るテレビ
 嫌いにはなれぬ道楽者を飼う
 嫌われていると知らない過干渉
 成りゆきで吐いた言葉に自己嫌悪
 嫌いだがほつては置けぬ人と居る
 ひとり旅ふたりは嫌い慣れました
 動物が嫌いな子にはしたくない
 四捨五入されてたまるか朽ちるまで
 正論を固持善人が嫌われる
 天敵のうわさ冷たく聞き流す
 歳月が嫌い昔丈が低くなる
 嫌われたらしい言葉に棘がある
 春雨は決して嫌いでないので
 泣きながら負けず嫌いが食い下がる
 嫌いな物ばかり体に良いと医者
 正論を振りかざすほど嫌われる
 自画自讃すればするほど嫌われる

中谷 栄子
 三瀬清一朗
 塩谷 邦子
 山岸 洋美
 村上 哲子
 確水 祥昭
 桑野まりこ
 中村八十八
 竹明なおみ
 鮎子田嘉子
 住田 照水
 富永 照子
 戸田 清孝
 本田 智彦
 大岩 郁夫
 谷口委佐子
 瀬戸 波紋
 山口由利子
 掃部 博隆
 西谷 公造
 西陣 五朗
 若山 宗彦
 森島アツ梗
 渡辺 柳山
 羽生 悦郎

嫌い嫌いと言つては世話をやっている 楠山東石子

宿題 力 田中 新一 選

飢えた日々力に換えて今がある
被災者の郷土愛する底力
海峽に人間力が試される

力攻めやがて輿論が背を向ける
つばやきがやがて怒濤となるネット

赤鬼の形相にする力水
力なく馬券が空に舞いあがる

八起き目のトライへ溜めておく力
その時へ今は力を溜める時

悔しさの底から湧いてくる力
瀬戸際になって出て来る馬鹿力

力強い握手に本気滲み出る
生きていく力があつた子育て期

腕前を子に見せつける魚釣り
褒め言葉魔法と子等に力付け

力一杯抱きしめ言葉などいらぬ
一步引くゆとりの力褒めてやる

力いっぱい抱き締め離す子の巣立ち
力学はないがわたしのちからこぶ

力仕事あとの一杯沁みてる
いつだって全力父の貨車である

何も言わぬ父で威厳がある背中
楠山東石子

優しさも力怒りを包み込む

義父母父母見た母さんの底力
歳重ね優しくなった力瘤

八合目おにぎりパワー上を向く
力抜くポイント知ればうまいく

力抜くことを覚えた腕まくり
力抜けば方程式が解けました

これからは肩の力を抜いて生き
朝ドラの訛りことばにある魅力

自分売るためなら見せる演技力
傘寿超え衰えました力こぶ

ジャムの蓋鬼の表情して開ける
足掻いても妻には勝てぬ老いの坂

私の微力頼りの日々がある
崖っ淵老いの力量試される

力まずに柳の様に生きている
へたへたと力が抜ける計の知らせ

土壇場でやっと目覚める底力
聴力の落ちて悪口聞こえない

渾身の力で生きて土になる
妻病んで主婦の妻さかのしかかる

居て欲しいただそれだけで良いのです
よく寝れた生きる力が満ちてくる

若山 宗彦

田中五十鈴

稲垣 義舟

小林 祥司

山岸 洋美

藤井 裕美

谷口委佐子

弘津 明子

常國 喜好

高瀬 秀子

井手 良祐

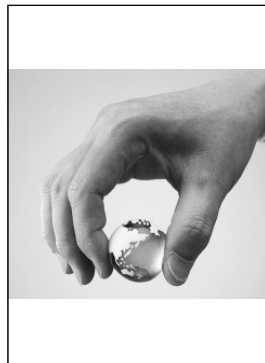
松下 英秋

水戸 二七

イメージ吟募集

2026年9月号(7月15日必着)

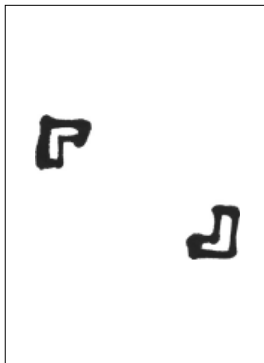
第131回 イメージ吟(2句)



※番号7月号の投句用紙をご利用ください。

2026年10月号(8月15日必着)

第132回 イメージ吟(2句)



※番号8月号の投句用紙をご利用ください。